



今月の公開授業

探究進学科合同LH 「学びについて考える、対話する」

1年探究進学科 国語科 教諭 辻崎 千尋

9/17 (金) 7限目、食堂にて

探究進学科合同のLHを行いました。本来4月に行われるはずだった宿泊研修がコロナ禍により中止となりましたが、探究進学科としての「学び」



として、6月の「ミニ課題研究発表大会」に続き、今回は探究進学科の交流をはかるとともに、進路実現に向かって学業にいそしむきっかけづくりを目的として実施しました。

1・2組混合で3～4名のグループを作り、まずはアイスブレイク「自分が絶好調になるために必要なもの」というテーマで1人1分話した後、メインテーマ「私は将来〇〇を学びたい！△△になりたい！夢をかなえるための策は?!」についてグループで15分話し合いました。ここでは校長・教頭をはじめ十数名の教員が各グループに入り、生徒とともに一緒に語り合いました。15分という時間はあっという間に過ぎ、最後は数名の生徒にグループで話し合った内容を紹介してもらいました。「アフリカの貧困層が貧困でなくなると、世界は持続可能でなくなる」というグローバルな話題も飛び出し、世界の諸問題に関わろうとする意識の高さがうかがえました。「ファシリテーター」「ギャラリーウオーク」などの言葉も学びつつ、考えて対話したこの1時間を、探究進学科のこれからに活かしてくれることを期待しています。

「人間生活探究／美術Ⅰ」における教科横断型授業

芸術科美術 教諭 伊藤裕貴

9/17 (木) 彫刻素材を石こうで成形するときの化学変化について、探究進学科の化学基礎担当である高橋真樹子先生と小原崇裕先生とのコラボ授業を実施しました。



前時に石こうを水で固めた生徒たちは各自が疑問に思ったことをレポートにまとめ持参。着眼点が良い生徒3人に発表してもらいました。焼肉が加熱とともに硬くなることを例に説明した生徒や、石こう利用の歴史や語源、JISの表記など多岐にわたる探究がみられました。その後、高橋先生の解説動画を視聴し、石こうの水と反応および作業時の失敗理由についても化学的視点から理解を深めました。

山中伸弥先生 オンライン講演会

9/12(土)本校にて双方向オンラインライブ配信『生命誌から生命科学の明日を拓く』が行われました。iPS細胞研究所所長山中伸弥先生の基調講演では、世界中で感染が広がっている新型コロナウイルスの現状と対策について触れた後、iPS細胞の研究でノーベル賞を受賞するまでの経緯についてお話しになりました。

その後、生命誌研究館館長の永田和宏先生と名誉館長中村桂子先生と山中先生の3人で、高校生の質問に答える時間がありました。3人の先生方が『現代の科学では解決できない事象の方が多い、それを解決するのは未来の科学者である皆さんです』とおっしゃっていたように、高校生活で知識を蓄え、社会で活躍できる人材になれるよう、励みましょう！

第3回PT会議より

9/17(木)に授業改善PT会議の時間を利用して、『評価に関する教員研修会』を開催しました。

まず、本校探究進学科の生徒による休校期間中の調査活動の発表を行い、講師の福井大学准教授遠藤貴広先生から助言を受けました。割り箸の本数と橋の強度の関係を数式で表した『ダヴィンチの橋』では、【橋の材質に割り箸を選択したのはなぜか?】【測定データのバラつきは誤差と呼んでいいのか?】との指摘を、次の『SNSの弊害』の研究では、【身近な人だけのアンケート結果は一般的なデータとはいえず、考察を限定する必要がある】等のデータ提示に関する指摘を受けました。どちらの指摘も探究的な活動を行う上で、非常に大切なことなので、是非今後の調査に役立てましょう！

次に本校の実行委員による『生徒が考える評価』についての発表がありました。例えば、プレゼンテーションについては、内容の論理性も評価に加えるといったように、【自分たちで評価基準を作りたい!】という熱い想いが伝わってきました。学校の先生が評価基準をつくり、生徒が【評価させられている】という従来型の評価も時代に合わせて変えて行く必要性を感じました。

最後に外部から来てくださった先生方と本校の教員でいくつかのグループを作り、評価方法に関する意見交換を行い、評価に関する知見を深めることができました。(密を避けるためZoomも併用しました。)

評価基準を自分たちで作成したいという想いは、参加いただいた多くの先生方に伝わりました。評価基準に限らず、生徒と先生、お互いの想いを共有していくことが、充実した学校生活に結びつくと実感しました！

9月PT 通信担当 松田 庄平